

【ミッションステートメント】「いっしょに歩こう！プロジェクト」～日本聖公会東日本大震災被災者支援

- ① わたしたちは、東日本大震災により困難を負って生きる人々に敬意を払っていっしょに歩きます。
- ② わたしたちは、被災地の方々の生活と地域の再創造に向けていっしょに歩きます。
- ③ わたしたちは、主イエス・キリストが、共に歩いてくださることに励まされていっしょに歩きます。

【神愛幼児学園で夏祭り】

7月30日（土）、釜石神愛幼児学園にて、「夕涼み会」が開催。園の行事であると共に地域にも開かれた行事として、近隣の仮設住宅（幼児学園の近隣には約400戸）からも、たくさんの方が楽しめました。7月27日より、ボランティア入られた沖田真理兄（札幌キリスト教会）は、「夕涼み会」と、ボランティアベース整備のための準備作業に藤井司祭・直姉と共に汗を流されました。

【釜石ボランティアベースを確保】

釜石では、震災直後より釜石神愛教会・幼児学園をベースにして活動を継続してきました。釜石神愛教会は、幼児学園（保育所）の遊戯室が礼拝堂を兼ねており、現在までの活動は、園舎の一部をお借りして続けてられてきました。このため、現地に滞在できるボランティアも通常2～3名に限られてきましたが、この度、釜石駅からほど近い国道に面する建物を、日本聖公会「いっしょに歩こうプロジェクト」の「釜石ベース」として借り受ける事となりました。1・2階合わせて40坪の建物で、1階は店舗フロアー・2階は3LDKの住居部分となっています。1階が支援活動に、2階は、最大10人程度が寄宿できるボランティア宿舎として活用される見込みです。

【ボランティアベース整備へ】

上記の建物は、津波到達点との境界線にあたり、津波で一階が浸水した事と、築40年の老朽建物で長く空き家となっていたために、大幅な改修と清掃作業が必要でした。そのため、石塚正史兄（聖マーガレット教会信徒）が現地入りし、工務店に委ねる工事と派遣ボランティアの奉仕による部分を仕分けしました。その結果、給排水、ボイラー・電気などの専門性の高い工事が、地元の工務店により10日間の工期で始まりました。釜石の現状では迅速な工事発注はとても困難なのですが、釜石神愛幼児学園の高橋理事長に尽力いただき実現。また、宿舎整備のための、生活物資（いわゆる鍋・釜・布団）の必要数の洗い出しと、寄贈依頼・購入計画が、藤井司祭・直姉によって進められました。「夕涼み会バザー」並びに「ボランティアベース備品」のため、物品提供下さった諸教会の皆様、感謝。

【ボランティアベースの掃除・改修ボランティア派遣】

業者による工事を引き継ぐ形で、一階のペンキ塗り・二階居室の内装・本格的清掃などのために、北海道教区から高橋力兄（苫小牧）、尾関敏明兄・尾関真理姉（帯広）、熊野威兄（ニコラス）、山崎典美兄・山崎直子姉（旭川）、海老原祐治兄、内海信武執事からなる8名のボランティアを派遣。苫小牧→八戸のフェリーと陸路で現地入りしました。8月5日～9日までの予定で作業に奉仕されます。このボランティアには、東北教区からも数名の方が参加下さいます。

【開所礼拝釜石ベース<被災者支援センター>開所礼拝】

★8月11日（木）午後2時より、現地において、加藤主教様の司式で、行われる予定です。

【高木泉さん、仙台での働きに】

仙台では、表瑞木（おもて・みづき）姉（札幌キリスト教会）が既に、システム管理の働きを中心にオフィススタッフとして働いておられます。新たに高木泉姉（深川聖三一教会）が、ボランティアワーカーとして、被災された在留外国人の方々へのケアの働きを中心とした働きに加わられました。

【藤井司祭から内海執事にバトンタッチ】

8月5日（金）、内海信武執事（平取聖公会・新冠聖フランシス教会）が、釜石での働きに着任。前任の藤井司祭との引き継ぎを経て、同地での約1か月間の働きがスタートします。一方、藤井司祭は、釜石ベース整備を見届けるため予定の1か月を更に一週間延ばされ、8月9日に、離釜の予定です。この間、藤井司祭と共に、藤井直姉（函館聖ヨハネ教会）が、現地で働きを共にされました。お二人には、最も暑い時期、釜石における拠点の立ち上げにご苦労いただきました。感謝。

【 釜 石 から 】

- 新たに開設される支援センターの壁面には、釜石幼児学園の延長線上に、飾り付ける。園長先生の許可を頂き、職員・園児の協力を得て、作品を壁面・ショーウィンドウに飾りつける。被災された方々、親子が共にくつろげ、話し合い、遊べるスペース、お茶やクッキー（気仙沼の）が味わえる。そんな夢も語り合えることができたが、鈴子（釜石ベースのある場所）への被災者の足はどうする。彼らはどうやって支援センターに来るのか。集まってくれるほどに魅力ある支援センターもまた楽しいとは思っているのだが。将来を展望して ①ボランティアの中には、労働奉仕を希望する方もあろう。幸い公的支援室も近いことだし、十分な情報を得て、支援のハザマにある人々を模索し、協力することができるだろう。
②町の中心部から離れた地域にある仮設の住民との関わりを継続する。やっぱりセンターから出て、逢い、話し、心を通わせるのがベターなのではないか。（藤井司祭）
- 夕涼み会に出店する準備。昨日夕方、仮設のお友達お二人が出店のお手伝いに来て下さり大助かり。午後再び仮設へ。昨日寝具を届けたUさんにお会いしとても助かったと言われ、私たちも嬉しくなる。「これは、北海道の皆さんからあなたにです」と伝えました。昨日お手伝い下さったSさん宅を訪問。アイスクャンディーを頂き、3・11の出来事を話して下さいました。1週間は言葉も声も無く、無表情であったそうです。体を寄せ合い寒さをしのいだと話して下さいました。涙が出てきました。明日の夕方、フリーマーケットのお手伝いできるので、今から楽しみと話しており、わたしも嬉しいです。（藤井直）
- 夕涼みの前に仮設へ、Dさんを訪ねると、家の中に招かれて昨日同様話しこむ。昨日の話しに続き、今日は姪っ子さんの話。今回の津波で行方不明になって3ヶ月に葬儀をすることになったが、姪っ子さんが見つからない。葬儀の前日になんと姪っ子さんのバックだけが見つかったという。葬儀の当日、空だった骨壺に姪っ子さんのバックが入れられて、ようやく区切りがついた気がしたという話だった。午後からは、神愛幼児学園の夕涼み会の用意を始める。仮設のSさんによると「今年はお祭りが中止になってしまい、こうゆう時だからお祭りをやってほしかっと思っていたので嬉しい。」と話していた。開式のずいぶん前から、Sさんは幼稚園にお友達数人と現れて、無料コーナーの手伝いをしてくれるという。各教会の方々が送ってくださった沢山の物資のダンボールを外に運び出すと、物資の前に人が集まり、開式を待たずして無料コーナーがスタート。それにしても、Sさんをはじめとして、仮設のお母さんたちの切り盛りのすばらしいこと！辺りが暗くなってく頃、子どもたちの歌と踊りのパフォーマンス「マルマルモリモリ」や「アンパンマン音頭」に手拍子が起こる。浴衣姿の子供たちや楽しそうな大人たち。元気なお年寄り、必ずしも当たり前ではなくなった2011年の夏、被災地となった釜石に夏の風景があった。みんなと釜石で働いて、みんなと釜石にいた2011年の夏は、特別な夏だ。（沖田真理）

【いっしょに歩こう！プロジェクト】

「いっしょに歩こう！プロジェクト」の活動の様子は、聖公会信徒家庭全戸に対して月一度発行される「ニュースレター」や、「いっしょに歩こうプロジェクト！」ホームページ<http://nssk.org/walk>で、ご覧いただく事ができます。

【支援室の活動】

インターネットで支援室ブログが見られます。<http://nsskhokkaido.blog89.fc2.com> 又は、「日本聖公会北海道教区ホームページ」→「東日本大震災」→「震災支援室ブログ」の手順でご覧下さい。

【震災支援室より】

- ◎ ニュース定期便は、各教会において掲示下さると共に、増刷して配布ください。
ニュース定期便のバックナンバーは、日本聖公会北海道教区のホームページに入り、「東日本大震災について」（アカ字で表示）をクリックすると見る事ができます。
- ◎ 教会や個人での取り組みについても、お知らせください。他の教会の活動の参考になります。

【連絡・問合せ先】 電話：011-561-0451、ファクス：011-736-8377
Eメールアドレス：saigai@nssk-hokkaido.jp
釜石ベース：090-6999-7840